

平成 30 年4月2日(月) 第 1 号

長野県松本深志高等学校長

平成30年度の始まりにあたって

校長二年目を迎えることとなりました今井義明と申します。深志32回卒業、 鎌田郷友会、軟式庭球部でした。最近12年間の勤務は、県庁と高校を行った り来たりの繰り返しで、同じ学校で管理職として2年目の勤務は初めてです。

校長室には、松本中学初代校長の小林有也先生の胸像の石膏塑像が置かれておりまして、さらにその横には、松本深志高校2代校長の岡田甫先生の笑顔のお写真が掲げられています。歴代の錚々たる顔触れが揃う深志の校長先生方の中においても、特に本校の校風に多大な影響を与えた象徴ともいうべきお二人にいつも見つめられ、「しっかりしろよ」と叱咤激励されている毎日です。



自画像(イメージです)

はぼ40年ぶりの母校で、一年間、生徒やその日常を見てきて感じたことは、先輩方の**自治の精神**を柱とする伝統を引き継ごうと、彼ら、彼女らなりに精いっぱい頑張っているな、ということです。本校は今年**創立 142 年**を数えますが、この間、脈々と受け継がれてきた校風は、時代とともに少しずつその形を変えながらも、しなやかに、したたかに生き続けています。これからの変化の激しい時代を生きていくためには、単に知識を知っているとか単純な問題に答えられるというのではなく、解決が難しい課題に対し、基本的な知識をもとに、思考力・判断力・表現力を身に付け、その上で、主体的に多様な他者と協働して行動する力が求められます。深志の自治の精神は、その力を身に着けるうえでも良い機会を与えてくれるものと考えます。(授業における学びの在り方については、今後、追々触れていきたいと思います。)

昨年度、マスコミで取り上げられた本校の主な活動の実績は、野球部を筆頭に運動部の活躍、放送委員会の全国優勝と鼎談深志の取り組み、宮城で行われた全国高等学校総合文化祭での活躍、高校化学グランプリ・地学会の課題研究・英語ディベート・ダブルダッチ部の全国大会での優秀な成績、棋道部やクイズ研究会の全国大会出場と、挙げ出せばきりがありません。このように表に出る、派手な活躍も数多くありますが、日常の中で、地道に、こつこつと、いかにも深志らしく自主的・主体的に活動している姿も、実にたくさんあります。こちらの方はあまり報道されることはありませんが、深志の校風を支えている大事な大事な要素になっています。

校長二年目を迎えて、私は、こうした深志生の日常を伝えられる一つの機会を作れればと考えました。今年始まった鼎談深志の中でも、地域の住民の方々から「**学校の様子や生徒の活動をもっと知りたい**」という声をいただいたこともあります。何気ない日常の一面を切り取ることで、深志の生活ぶりを感じてもらえたり、激励やアドバイスなどをいただいたりできればと思います。

小林校長先生の胸像と岡田校長先生の笑顔の前で、**週に一度発刊**するという目標を自分に課してみました。お二人から「**だいじょうぶなのか**」と言われたような気もしますが、始業式や終業式で偉そうなことを生徒の皆さんに言っている手前、途中で挫折することがないようにしたいと思います。(必ずしもハードルの高い目標でもないわけですし……) 学校のホームページに載せていきますので、どうかご笑覧ください。

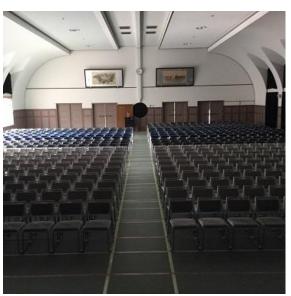
入学式は桜の中で





のもあり、松本では珍しい桜の花の下での入学式となり そうです。

新入生を迎える用意も着々と進んでいます。入学式が行われる講堂は既に準備万端。深志には「舞台装置設置委員会」(通称、舞装)という、講堂を舞台に変えていく生徒によるプロ集団が組織されていて、今年も春休み中の3月30日から4月1日までの三日間かけて、きっちりと仕上げてくれました。この後、4月13日~14日には縮小とんぼ祭が予定されていますが、その舞台設置に向けて、ポータブルステージのミリ単位での調整や緞帳の作製、完璧に光が漏れないように窓を目張りするなど、こだわりの献身的な作業が舞装には待っています。戦前か



ら存在していたという舞装、またいずれ、その活躍(暗躍?)ぶりを紹介できればと思います。

今週の予定

日	曜日	行 事 等	その他
2	月		
3	火	新年度準備職員会 (午前)	
		新任式・始業式(午後、2・3年)	
4	水	入学式(10時~、1年)	
5	木	対面式 X線(1年)	
		整理テスト	
6	金	▼ 歌の練習 (1年)	
7	土	土曜授業	
8	日		同窓会「お花見」
9	月	(A1) 心電図(1年) 歌の練習(1年)	